



弁護士
佐藤 泉

佐藤 泉

循環型社会は、一言で言えば、人間が賢く物を利用する社会だと思えます。人間は物を利用することによって人間となり、社会を形成します。個々の物は壊れることを宿命とし、個々の人間の命も限りがあります。しかし、社会全体は、脈々と物を作り、技術を革新し、同時に廃棄物を処理していきます。このように考えると、消費とは比較的個人的な行動ですが、生産と廃棄物処理は社会的な仕組みであると言えます。

廃棄物処理と市場経済

多様な競争が信頼・安心につながる

そこで、生産と廃棄物処理を連携させるという考え方が、拡大生産者責任でしよう。具体的には、製品価格に廃棄物処理費用を内部化さ

そこで、生産と廃棄物処理を連携させるという考え方が、拡大生産者責任でしよう。具体的には、製品価格に廃棄物処理費用を内部化さ

そこで、生産と廃棄物処理を連携させるという考え方が、拡大生産者責任でしよう。具体的には、製品価格に廃棄物処理費用を内部化さ

そこで、生産と廃棄物処理を連携させるという考え方が、拡大生産者責任でしよう。具体的には、製品価格に廃棄物処理費用を内部化さ

物について、誰に責任を持たせれば公平なのか分りませぬ。

わが国では、家電リサイクル法、自動車リサイクル法が

料・燃料・部品・完成品に至るまで、想像を絶する多くの人が分担し、また競い、市場の縮小・拡大を繰り返しながら行われる社会的活動だからです。したがって、廃棄

どんな責任を負わせるのか不明瞭であるため、今でも生産者が責任を持っているという実感がわかない法律です。したがって、これらの法律の質

味期限は自ずと限られたものでしょう。一方、建設業界は、非常に古く、また国内に特化した業種です。したがって建設リサイクル法ではなく、建設業法のルールにした

味期限は自ずと限られたものでしょう。一方、建設業界は、非常に古く、また国内に特化した業種です。したがって建設リサイクル法ではなく、建設業法のルールにした

方が現実的だと思えます。

よく、製造はグッズの世界、廃棄物はバツズの世界なので、市場経済を同じように導入できないという意見を聞きます。しかし、私はどう思っています。製造も廃棄も、多様な人たちが分担し、また競い、リサイクルや最終処分をしていくことにより、長期的な安全性や経済的合理性、そして信頼・安心という倫理につながっていくと思えます。独占・排他的な社会は、いつか大きく失敗するのでは、歴史の常です。私は、廃棄物処理法やリサイクル法の最大の問題は、不信を前提とし、再委託を禁止していることだと思っています。

(まじゅういずみ)